

一組織・構成員一

＜中央検査部＞

部長：今北正美  
 科長：三ノ浦保彦 科長代理：原克則  
 主幹：栄川智子、中村雅美  
 臨床検査技師（総数）：30名（うち、非常勤1名、臨時嘱託員4名）

＜輸血部＞

部長：福島健太郎  
 輸血部担当技師：4名（他部門と兼務者含む）

＜病理診断科＞

部長：今北正美  
 病理担当技師：5名（他部門と兼務者含む）

一基本方針・目標一

＜基本方針＞

- ・常に患者様の立場に立って考え行動します。
- ・精度の向上を計り、良質な検査結果を提供します。
- ・業務・経営改善に努力し効率のよい検査を行います。

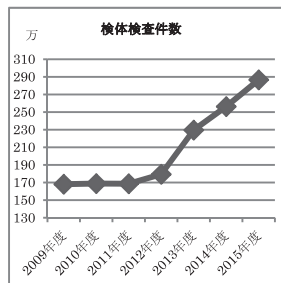
＜目標＞

- ・検査の迅速化を行い、待ち時間の短縮に貢献する。
- ・検査技術のさらなる向上を目指す。
- ・チーム医療の一員として貢献する。

一各部門の概要及び実績一

＜検体（生化学、免疫、血液、一般）検査部門＞

2015年度に生化学・免疫・血液・凝固検査の測定装置の機器更新を行った。各測定装置の処理能力や精度が向上したことにより検体数増加に対応できるようになった。又、同時に新規検査項目のC-ペプチドとインスリンの2項目を院内検査として実施した。



来年度中には、更に小型生化学測定装置も稼働する予定である。今後の増加する検体数や新規検査項目にも対応できるよう取り組む予定である。

【今年度の成果と反省点】

最新機種を導入で、測定時間の短縮及び、業務の効率化を達成した。

一方では機器トラブルによる結果報告遅延が数回発生した。患者さんならびに関係者に迷惑をおかけした。

【来年度への抱負】

機器トラブル発生時の対応マニュアルを作成することで、検査結果報告遅延をできるだけ少なくすること。

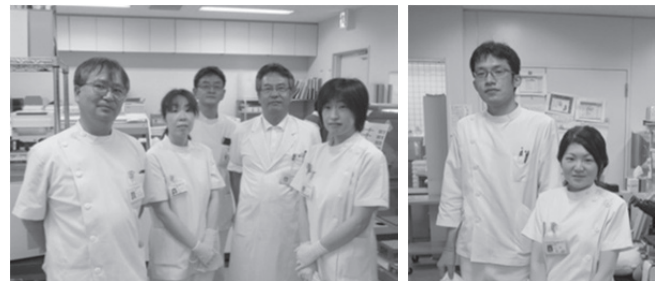
さらなる業務の効率化を図ること。

(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生化学的検査	89,766	84,371	92,143	95,991	90,724	89,524
血清・免疫学的検査	7,265	6,824	7,397	7,777	7,093	7,809
血液学的検査	14,248	13,792	14,463	19,801	28,341	28,041
一般検査	15,949	14,108	16,480	16,583	15,097	15,722
合計	127,228	119,095	130,843	140,152	141,255	141,096

(外来)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生化学的検査	92,773	83,042	87,541	91,192	87,320	92,672	1,077,059
血清・免疫学的検査	7,997	7,208	7,649	8,153	7,496	8,184	90,852
血液学的検査	28,612	26,310	27,231	28,380	27,148	28,457	284,824
一般検査	15,127	13,465	14,619	14,668	13,931	16,229	181,978
合計	144,509	130,025	137,040	142,393	135,895	145,542	1,634,713

(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生化学的検査	61,817	63,356	64,563	69,524	69,791	64,064
血清・免疫学的検査	1,209	1,069	1,159	1,214	1,189	1,427
血液学的検査	14,442	14,738	15,409	19,721	28,421	26,089
一般検査	10,732	11,656	11,371	12,647	13,050	10,626
合計	88,200	90,819	92,502	103,106	112,451	102,206

(入院)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生化学的検査	68,861	64,004	65,924	66,726	67,592	70,260	796,482
血清・免疫学的検査	1,438	1,158	1,354	1,637	1,464	1,567	15,885
血液学的検査	27,810	25,622	26,426	27,170	27,295	28,346	281,489
一般検査	11,459	9,931	9,627	10,924	12,476	13,580	138,079
合計	109,568	100,715	103,331	106,457	108,827	113,753	1,231,935



＜微生物学的検査部門＞

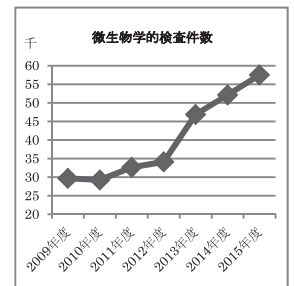
細菌培養検査件数は年々増加傾向にある中、近年多様化しつつある各種耐性菌にも対応できるよう、スタッフの知識と技術向上に努めている。

【今年度の成果と反省点】

通常の検査に加え臨床側からのグラム染色の至急鏡検依頼や、迅速検査、抗酸菌検査など、時間的に制約がある検査にも対応してきた。しかし ややマンパワー不足気味であり、検体数が多い時などは至急対応できないこともあり、ご迷惑をおかけした。

【来年度への抱負】

来年度からは、感染防止対策加算1の施設基準が厳しくなるため、環境ラウンドなどのICTとしての感染対策業務への参加が更に重要度を増してくると思われる。細菌室としてはそのために必要なデータの提出も重要な業務であり、こちらの効率化を図りたいと考える。



(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
微生物学的検査(一般)	931	945	915	1,073	973	865
微生物学的検査(抗酸菌)	203	138	113	139	150	130
微生物学的検査(迅速)	250	178	164	151	161	124
合計	1,384	1,261	1,192	1,363	1,284	1,119

(外来)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
微生物学的検査(一般)	890	856	838	1039	973	887	11,185
微生物学的検査(抗酸菌)	132	135	100	124	135	148	1,647
微生物学的検査(迅速)	132	187	197	270	501	384	2,699
合計	1,154	1,178	1,135	1,433	1,609	1,419	15,531

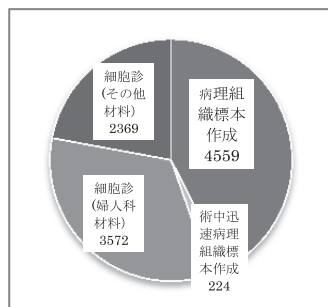
(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
微生物学的検査(一般)	2,823	3,438	2,966	3,375	3,724	3,326
微生物学的検査(抗酸菌)	89	54	108	88	79	48
微生物学的検査(迅速)	32	36	40	47	41	25
合計	2,944	3,528	3,114	3,510	3,844	3,399

(入院)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
微生物学的検査(一般)	3,290	3,106	3,353	3,691	3,492	3,973	40,557
微生物学的検査(抗酸菌)	63	45	50	53	62	49	788
微生物学的検査(迅速)	31	33	42	60	117	123	627
合計	3,384	3,184	3,445	3,804	3,671	4,145	41,972



### <病理診断科>

病理部門では、中央検査部の業務にも応援従事するなどして臨床検査部全体の業務が円滑に流れるよう広い視点に立って日常の業務に取り組んでいる。2015年度における細胞診



検査件数は前年度に比して減少傾向にあったが、病理組織検査件数は現状を維持できていた。現在、検査機器は老朽化に伴う故障が目立っており、早急な更新が望まれる。本年度、免疫染色& in situHybridization全自動システム(Ventana Benchmark ULTRA)を更新することができたことは、病理検査の診断精度を維持しつつ TAT (turn around time)の短縮を目標としている同部門において有用なことと考える。今後も臨床サイドから信頼される病理部門を目指して業務に取り組んでいきたいと考えている。

#### 【今年度の成果と反省点】

免疫染色装置の更新により、染色性が向上し、従来用手法で2日を要していたEBERの染色が自動化されたことで、報告までの時間が1日短縮された。

しかし、更新された染色装置の試薬コストが従来に比して高いことが反省される。

#### 【来年度への抱負】

試薬や消耗品等の見直しや試薬量を少なくする工夫等を通してコスト削減し、経営改善に貢献したい。

(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病理組織標本作成	156	161	163	154	182	158	163	163	177	176	173	177	2,003
術中迅速病理組織標本作成	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
細胞診(婦人科材料)	346	314	384	293	152	161	357	300	256	280	277	350	3,470
細胞診(その他材料)	173	182	185	162	152	161	182	156	148	141	139	187	1,968
合計	675	657	734	609	486	480	703	619	581	597	589	714	7,444

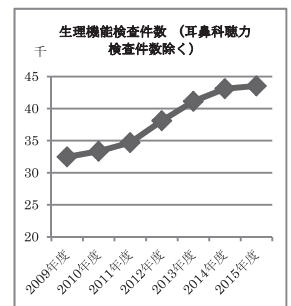
(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病理組織標本作成	234	180	201	231	222	200	207	200	214	196	225	246	2,556
術中迅速病理組織標本作成	20	15	14	14	19	19	17	17	21	14	29	22	221
細胞診(婦人科材料)	2	1	1	1	46	38	3	2	2	3	1	2	102
細胞診(その他材料)	40	28	29	40	46	38	32	21	24	31	28	44	401
合計	296	224	245	286	333	295	259	240	261	244	283	314	3,280



### <生理機能検査部門>

2015年度も新たに超音波認定試験で2名の合格者(体表部門・健診部門)が増え、計8名(計26部門)となった。

しかし救命ICU・5山病棟・りんくうICU 他の病棟のポータブル検査の依頼が超音波検査全



体の約15%を占め、検査件数は純増を続けている。今後の運営において、マンパワーの不足が懸念されるので、人材の育成が急務と考える。

本年度より、人間ドック枠を週2枠増やし、又、外国人ドックにも取り組んだ。聴力検査においては、新たに耳管機能検査やインテグリティ(ABR)も始めた。

問題点としては、エコー当日枠件数の増加、依頼時間の集中により待ち時間が発生している。

今後の課題としては、待ち時間の短縮のためシステム導入等を進める必要があると考える。

#### 【今年度の成果と反省点】

臨床側からの依頼で、入院での心臓エコーや下肢エコー件数が増加しているが、病棟ポータブル検査が多く業務が捗らなかった。

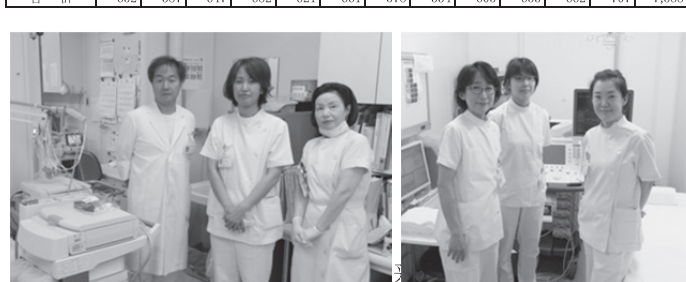
#### 【来年度への抱負】

人材の育成と超音波画像・レポートシステムの導入を目指している。それにより、業務の効率化や収益増・検査待ち時間の短縮につなげたいと考えている。

生理機能検査 (外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心電図	1,166	979	1,078	1,190	1,043	946	1,143	970	978	1,059	991	1,064	12,507
負荷心電図 (レドール含む)	127	92	144	127	138	96	139	133	133	133	112	116	1,489
ホルター型心電図	25	20	25	28	25	24	38	26	27	28	26	28	320
簡易呼吸機能	301	274	308	352	300	292	314	316	318	238	325	337	3,675
精密呼吸機能	7	9	7	3	4	2	8	7	3	3	7	7	67
脳波	17	5	10	14	10	9	7	7	6	14	6	13	118
脳波(小児)	14	8	1	14	21	8	5	9	8	9	4	13	107
ABR (新生児)	6	4	6	4	10	3	7	12	3	8	4	5	72
ABI・CAVI	190	153	199	217	154	142	215	157	152	184	154	172	2,089
SPP	7	4	8	6	11	7	2	5	6	11	5	12	84
中心血圧	109	95	115	116	79	74	103	71	56	104	86	85	1,093
呼吸抵抗	18	13	33	31	20	26	28	23	29	9	30	32	292
腹部エコー	368	336	385	401	360	323	337	326	329	344	351	327	4,187
表在エコー (甲状腺を含む)	77	61	78	98	66	79	76	76	79	97	76	90	953

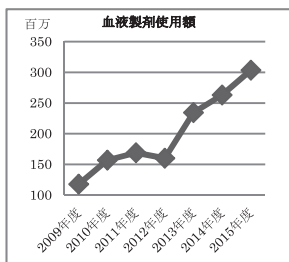
生理機能検査 (外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
乳腺エコー	104	72	127	99	112	104	127	85	109	100	106	117	1,262
心臓エコー	406	377	428	433	402	366	442	396	367	428	380	426	4,851
血管エコー	241	191	251	260	249	217	231	204	205	230	241	241	2,761
関節エコー	2	0	2	0	3	1	1	1	1	2	2	10	15
合計	3,078	2,693	3,205	3,393	3,009	2,719	3,223	2,824	2,809	3,001	2,906	3,085	35,942

耳鼻科外来聴力検査	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
標準純音	95	101	109	122	117	124	87	98	109	92	100	88	1,242
簡易聴検査	179	172	194	196	153	126	167	149	167	139	182	179	2,003
気管導(L)	5	5	4	3	5	1	4	1	5	2	3	1	39
気管導(R)	9	0	4	4	7	3	3	3	5	5	5	4	52
ABLB	6	9	5	1	5	2	5	4	6	2	3	5	53
SISI	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5
ディンパノ	59	52	45	62	51	66	47	44	57	63	41	48	635
耳小骨筋	7	6	3	8	10	6	7	5	7	4	6	4	73
OAE	14	17	15	14	8	8	6	7	5	5	5	11	115
電気味覚	4	6	3	8	7	6	3	6	7	6	5	5	66
テスタ味覚	3	3	6	5	2	2	1	1	4	1	3	3	34
語音	0	2	0	1	1	0	0	2	1	0	0	0	6
aABR	1	2	1	1	0	0	1	0	0	0	2	0	8
ABR	5	6	7	3	8	2	2	7	5	4	9	7	65
ASSR	5	6	7	5	7	2	1	6	6	4	3	3	55
ENoG	4	5	3	5	7	3	3	3	6	6	3	2	50
耳鳴・耳管機能・自己	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	5	10
合計	398	394	407	437	388	351	337	336	395	332	370	365	4,511



＜輸血部＞

2015年度の輸血関連検査は外来、入院共に件数は前年度より増加している。また血液製剤の使用数はRBC、FFP共に前年度より減少しており、PCは増加している。



【今年度の成果】

今年度は小児科からの要望を受け、ABO不適合妊娠の検査を24時間体制とし、迅速に結果報告できるようになった。また血液廃棄率は前年度より下げることができ血液関連製剤の有効利用を促進した。

【今年度の反省点】

宗教的事由等による輸血拒否患者の対応を院内策定したが、周知徹底されていないのが現状であったため、今後はさらに職員全体での知識共有の徹底を心掛ける。

【来年度への抱負】

来年度は廃棄額を減らすために在庫数の見直しを定期的に行い、廃棄額のさらなる減少および輸血関連製剤の適正使用を目指す。また血縁者間・非血縁者間の造血幹細胞移植の再開に伴い輸血システムの変更を行う。

さらにクリオプレートの院内作成の開始に向け取り組む。

輸血関連検査 (外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液型検査	569	540	563	620	585	549	576	533	556	554	568	590	6,803
スクリーニング	143	124	128	143	149	164	140	146	148	158	154	142	1,739
直接ケームス試験	4	3	4	2	2	6	2	5	4	2	7	3	44
間接ケームス試験	89	94	86	98	89	72	80	64	92	86	84	96	1,030
合計	805	761	781	863	825	791	798	748	800	813	831	9,166	

輸血関連検査 (入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液型検査	139	151	142	127	137	132	105	110	119	124	126	117	1,531
スクリーニング	2	3	0	1	1	4	0	3	2	3	4	0	23
直接ケームス試験	5	2	1	4	2	5	4	1	6	7	4	4	45
間接ケームス試験	29	21	21	24	27	24	10	14	21	18	16	18	243
合計	175	179	164	156	167	165	119	128	148	152	150	139	1,842

輸血検査、血液製剤使用額。廃棄額(外来・入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
血液交差試験(RCC)(単位数)	889	1,036	898	981	802	965
血液交差試験(FFP)(単位数)	500	646	384	730	506	822
血液交差試験(PC)(単位数)	2,005	1,825	1,535	1,795	1,605	2,080
自己血貯血(単位数)	28	28	37	36	44	24
血液製剤購入額(万円)	2,645	2,697	2,249	2,651	2,334	3,034
血液製剤廃棄額(万円)	36	0	35	41	46	36
RCC廃棄率(%)	1.3	0	2.6	4.7	3.3	4.0

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液交差試験(RCC)(単位数)	787	738	864	934	710	901	10,505
血液交差試験(FFP)(単位数)	556	413	758	578	364	838	7,095
血液交差試験(PC)(単位数)	1,970	1,185	1,965	1,880	1,470	1,620	20,935
自己血貯血(単位数)	22	18	24	22	18	31	322
血液製剤使用額(万円)	2,591	1,864	2,933	2,727	2,036	2,590	30,351
血液製剤廃棄額(万円)	5.1	16	11	7	30	14	277
RCC廃棄率(%)	0.6	3.1	1.5	1.0	4.5	2.1	



一認定検査士一

- 超音波検査士 (消化器領域)8名、(循環器領域)4名、(表在領域)6名 (泌尿器領域)3名、(血管領域)2名、(健診領域)3名
- 細胞検査士 (日本資格)5名、(国際資格)3名
- 認定血液検査技師 2名 ・骨髄検査技師 1名
- 認定輸血検査技師 1名
- 救急検査認定技師 2名 ・緊急臨床検査士 1名